

第 112 回実践勉強会 実施レポート

2019 年 11 月 12 日 大森赤十字病院 講堂
共催 キッセイ薬品工業(株)

特別講演

「糖尿病治療、最近の話題」

大森赤十字病院 糖尿病・内分泌内科 部長 北里 博仁 先生

参加者 91 名

質問 1:

ビクトーザトレシーバ配合剤「ゾルトファイ」について。各薬剤の個別調整ができないので用量調節が難しいのではないかと。単剤同士の方が良いのではないかと。

回答 1:

配合剤はそこそこの評価である。仮にビクトーザ1.8mgを投与している患者をゾルトファイに変えようとする、インスリン50単位となってしまう、多すぎる。なんでもかんでも配合剤とせず、細かい調整が必要な患者には、2剤の別打ちが良い。低血糖の観点から、インスリン単独よりは配合剤が良いので、少ないインスリン量で徐々に調整すべき。患者が治療を諦めないように、妥協点を決め、その薬剤の守備範囲を超えないようにすることが大事。

質問 2:

「ゾルトファイ」のストライクゾーンは狭いのではないかと。

回答 2:

一旦引いてみてから検討してみないとリスクがあるかもしれない。

質問 3:

トレシーバとビクトーザはpHの観点から製剤的に混ぜて問題ないのか。

回答 3:

販売会社に確認をしてみてください。特許が絡むので全てはわからないが、混ぜても品質が確保されているとメーカーから聞いている。昔のインスリン2剤混合のように「よく振る」対応は必要ないとのこと。

文責: キッセイ薬品工業株式会社 牛山